
早稲田大学

大学院文学研究科

進 学 説 明 会

2011 年 6 月 25 日開催

- ❖ 2012 年度 入学試験日程
- ❖ 2012 年度 募集コース
- ❖ 2012 年度 修士課程入学試験概要
- ❖ 2012 年度 博士後期課程入学試験概要
- ❖ 学費について（～ご参考 2011 年度～）
- ❖ 奨学金制度
- ❖ 第二部 コース別ガイダンスのお知らせ



早稲田大学

2012 年度(平成 24 年度)入学試験日程

修士課程

入試要項は文学研究科ホームページで7月下旬からダウンロード可能となります。

※日本の大学で学位(学士号や修士号)を取得(取得見込)していない留学生は、下記とは別の日程で国際アドミッションズオフィスに出願する必要があります。

出願期間	2011年8月22日(月)～8月26日(金) *郵送受付のみ。締切日消印有効。
一次試験日	2011年9月17日(土)
一次試験合格発表日	2011年9月22日(木)
二次試験日	2011年9月23日(金・祝)*日本史学コースのみ 2012年2月10日(金)
合格発表日	2011年9月26日(月) *日本史学コースのみ 2012年2月13日(月)
入学手続日	2012年2月29日(水)・3月1日(木)

一次試験の試験科目は各コースの専門科目と一般外国語。二次試験は口述試問。

博士後期課程

入試要項は文学研究科ホームページで10月下旬からダウンロード可能となります。

※日本の大学で学位(学士号や修士号)を取得(取得見込)していない留学生は、下記とは別の日程で本学の国際アドミッションズオフィスに出願する必要があります。

出願期間	2012年1月6日(金)～1月12日(木) *郵送受付のみ。締切日消印有効。
一次試験日	2012年2月5日(日)
一次試験合格発表日	2012年2月8日(水)
二次試験日	2012年2月10日(金)
合格発表日	2012年2月13日(月)
入学手続日	2012年2月29日(水)・3月1日(木)

一次試験の試験科目は各コースの専門科目と一般外国語。ただし、心理学と西洋史学コースは専門科目の試験を行いません。二次試験は口述試問。

■早稲田大学国際アドミッションズオフィスホームページ

<http://www.waseda-iao.jp/waseda/index.html>

※東日本大震災で被災した2012年度入学志願者の方を対象に、学費等および入学検定料の減免を実施する予定です。申請方法および制度に関する詳細については、早稲田大学入学センター：TEL 03-3203-4331 までお問い合わせください。

早稲田大学 大学院文学研究科 2012 年度募集コース

修士課程 人文科学専攻 コース一覧 募集人員：315 名
哲学
東洋哲学
心理学
社会学
教育学
日本語日本文学
英文学
フランス語フランス文学
ドイツ語ドイツ文学
ロシア語ロシア文化
中国語中国文学
演劇映像学
美術史学
日本史学
東洋史学
西洋史学
考古学
文化人類学
表象・メディア論
現代文芸(修士課程のみ)

博士後期課程 人文科学専攻 コース一覧 募集人員：若干名
哲学
東洋哲学
心理学
社会学
教育学
日本語日本文学
英文学
フランス語フランス文学
ドイツ語ドイツ文学
ロシア語ロシア文化
中国語中国文学
演劇映像学
美術史学
日本史学
東洋史学
西洋史学
考古学
文化人類学
アジア地域文化学(博士後期課程のみ)
表象・メディア論

■早稲田大学大学院文学研究科ホームページ

入試情報 (入試日程・入試結果データほか)
在学生情報 (講義内容ほか)

<http://www.waseda.jp/bun/gs/admission/>
<http://www.waseda.jp/bun/gs/student/>

早稲田大学 大学院文学研究科 人文科学専攻 コース紹介

哲学コース

今日の状況にあって哲学は、真理を探究すると同時に、その真理がいかに実現されうるかについても問わなければならない。それゆえ哲学コースにおいては、古典的な文献を読むという従来の哲学研究はもちろんのこと、臨床的・実践的分野における首尾一貫した哲学的思考力の陶冶も目指されている。

修士課程においては、研究基礎能力(アーカイブ操作・プレゼンテーションスキル・プロジェクト開発等)を身につける教育がおこなわれる一方、修士課程修了とともに就職を考えている学生のためのさまざまなケアもおこなわれている。また博士後期課程においては、研究能力の充実はもちろんのこと、研究者・教員としての十分な適性と資質を確保するための実践的な指導がなされている。

なお哲学コースが提供する授業ないし研究指導は、時代区分としては、古代ギリシアから中世、近代、現代までを網羅し、領域としては狭義の哲学から倫理学、美学、宗教学までをカバーしている。

主な進路 : 中・高・大学教員、研究者、公務員、マスコミ・ジャーナリズム、IT 関連企業、外資系企業など

東洋哲学コース

東洋哲学コースは、東洋の思想と宗教を、それぞれの関心に応じて究明できる編成になっている。地域を基準にすればインド哲学・中国哲学・日本思想という分類が可能になり、また、その内容は仏教・儒教・道教・神道等を研究領域とする。しかもそれらは多彩に交錯する。各自の研究テーマに沿って修士論文や博士論文の作成を行う上で、隣接する分野の知識が必要な場合、極めて有効な指導体制になっていることを大きな特色とする。

研究指導についての概略を言えば、インド哲学ではサンスクリット語文献を中心とした仏教及び諸哲学学派の思想解明、中国哲学では儒教及び江戸儒学の研究、更に道教と道家思想の研究や儒・仏・道三教の交渉史研究、日本思想では宗教思想史の研究、或いは仏教諸宗の教学研究を中心にしたものがあり、研究の間口は広い。

各分野ともに、アジアや欧米諸国との研究交流も盛んであり、国際的な視座に立っての東洋哲学研究を構築することができる。

主な進路 : 高校・大学等の教育界、出版界、ジャーナリズム、図書館、博物館など

心理学コース

急速な情報化、国際化の波を受け、私たちはこれまでにないほど複雑で変動の激しい時代を生きている。心理学コースでは、「実学の早稲田」の名に相応しく、こうした現代社会に立ち現れる諸問題を実践的に解決し、実社会に貢献できる高度専門家の育成を目指している。

本コースの魅力の一つは、「充実した専門領域」である。具体的には、生理・身体心理学、発達心理学、健康心理学、学習心理学、臨床心理学、産業ストレス心理学、社会心理学、心理統計・推計、認知心理学、言語心理学、犯罪・非行心理学、認知神経心理学など、心理学の主要領域をカバーする演習を開講している。加えて、心理学特論(1)~(4)では、毎年さまざまな領域の第一線で活躍している研究者を講師に招き、その領域の研究最前線を学ぶ機会を提供している。また博士後期課程では、博士論文の作成指導に力を注いでおり、学位取得者は年々増加している。

教員、大学院生ともに、学会発表などの研究交流・研究活動を活発に行なっており、学問的活気に満ちている。また、人間の心と行動のスペシャリストとして、大学・官公庁・企業・研究機関、各種施設等で活躍する人材を数多く輩出している。

主な進路：〈修士課程〉博士後期課程進学、企業、臨床現場、公務員、研究所 〈博士後期課程〉大学講師、研究機関

社会学コース

社会学コースでは、人間が社会生活のなかで引き起こす社会現象の諸相を、理論的方法と実証的方法の両者を結びつけながら研究する。本コースの教員が専門とする領域は、理論社会学、コミュニケーションの社会学、文化社会学、地域社会学、政治社会学、宗教社会学、家族社会学、ライフコース論、集団・組織論、社会階層論、集合行動論、相互作用論、グローバル社会学などと多岐にわたっており、学生は自分独自の関心にあわせて、社会学の広範囲の分野の専門家の指導を受けながら研究することができる。

また、専門社会調査士資格科目群も設置され、専門社会調査士の資格を取得することができる。

本コースでは、社会学の先達が積み上げてきた経験的データや理論的思考を基礎にしながらも、現代社会に起きているダイナミックな変化の諸相を鋭敏な感性で掬い取り、ユニークな視点で分析することができるような研究者の育成に努めている。

主な進路：研究職、公務員、シンクタンクなど

教育学コース

教育学は、人間の成長・発達の可能性に即して、人間形成の理念や実践上の課題をさまざまな角度から研究する学問である。今日、社会的にも強い関心もたれている家庭教育、学校教育、社会教育の諸問題をはじめとして、教育学が取り扱う内容は広範多岐にわたっているが、教育学の研究においては、人間の成長が常に自然的社会的歴史的諸条件と不可分である以上、人間に関する諸々の学問をとりいれ、幅広い見地から人間をとらえる姿勢が重要である。

本コースは、学校教育学、高等教育学、教育行政学、教育法学、比較教育学、国際教育学、社会教育学、生涯学習、教育思想などの分野の教育者を擁し、研究者および実践者の養成をめざしている。博士課程では、研究者養成に向けて、博士論文執筆、学会発表、学術誌への論文投稿、共同研究などの研究活動への指導を進めている。修士課程では、研究者養成への基礎研究にとどまらず、教員、社会教育・生涯学習関連職員、行政職員、NPO・NGO職員などの実践者の養成に向けて、学校教育、社会教育、行政、NGO・NPOなどの現場・現実にコミットしながらの実践研究を進めている。また院生・教員間での研究と実践の共同検討の場として、研究会やフォーラムを開催している。全体として本コースでは、研究と実践の協働、理論研究と実践研究の融合による今日的教育課題についての研究考察に努めている。

主な進路：研究職、教員、各種教育系・福祉系団体・機関など

日本語日本文学コース

日本語および日本文学全般について、豊かな見識と、専門的な知識を獲得するための技術とを身につけ、それぞれの研究分野・対象のエキスパートを養成することが、本コースの研究教育上の理念であり、目的である。

日本文学においては、上代・中古・中世・近世各時代の散文・韻文研究に対応し、近代・現代では明治・大正・昭和・現代文学の研究に対応、また、日本語学においては古代語から現代語にいたるまでの音韻・文字・語彙・

文法・方言などの多岐にわたる日本語学研究に対応する体制をつくっている。研究方法においても、従来の文学・言語理論から最新のメディア・表象理論、文化研究、ポストコロニアリズム等にいたるさまざまな方法に対応できる教員がそろそろ。

主として日本文学または日本語学の研究者、ひろく日本文学または日本語学の教育に携わる者、日本文学または日本語学の高度の専門知識を必要とする編集者、ジャーナリスト、表現者を養成する。近年、世界各地からの留学生も多く、新たな見方・思考が交叉するゼミは活気に溢れる。

主な進路：大学・短大教員、高校・中学校教員、研究所研究員、出版社、マスコミ各社ほか

英文学コース

大学教員、高校教員（一級免許）、そして英語を用いる高度職業人を養成する。英語学のほかに英語圏文学の全ての時代とジャンルをカバーするスタッフがそろっており、ポストコロニアル文学にも対応している。

修士課程では、ネイティブ・スピーカーによる基礎講義で、大学院レベルの英文学研究の基礎を学ぶと同時に、多彩な「特殊研究」と「演習」によって個別の領域についての知識を深める。1,2年次とも指導教授による「研究指導」を必修とし、その下で各自の選んだ研究を進め、修士論文の完成を目指す。博士後期課程では、指導教授による研究指導の下で、自発的な研究活動を行ない、最終的には博士論文の完成を目指す。

修士・博士後期両課程において、全国レベルの学会での発表や学術雑誌への投稿、そして学内の年次研究発表会での発表や、レフェリー制の雑誌『英文学』のための論文制作などを奨励することによって、自立した教育研究者を育成する。

主な進路：中学校教員、高校教員、大学教員、出版社

フランス語フランス文学コース

フランス語圏の言語・文学・文化を研究の対象として、あわせて dissertation など、フランス語の実用的な運用能力を高めることを主眼とする。研究の分野によって配属される各研究指導教員が、主として学生の指導を担当するものの、修士課程での研究は、広い視野にたった研究能力が身につくように、幅の広い専門演習・講義科目を履修し、修士論文を完成させるように、複数の教員が指導している。博士後期課程に進学後は、高度の専門性をもった研究を本大学において、あるいはフランス語圏の大学に提出する博士論文として、結実させるのが目的である。

多くの学生が修士課程在学中に、本学と協定のあるフランス語圏の大学に年間留学しており、博士後期課程に進学後のより長期間の留学に備えている。

本コースでは、毎月のように開催される外国人研究者のフランス語による小規模な講演やゼミに象徴されるように、日本人教員と外国人教員が密に連携している。留学後の専門研究が可能になるように、多彩な授業を準備しているところが特徴であろう。

主な進路：研究職、フランス語教員、出版社、一般企業ほか

ドイツ語ドイツ文学コース

本コースは、ドイツ語学・ドイツ語文学研究の場はもとより、広くドイツ語圏の思想や文化に関する様々な問題について、学生各自のテーマ設定に即して深く研究することのできる場を提供する。

ドイツ語圏は、中世以来現代に至るまで、重要な詩人、作家、思想家、芸術家、学者を輩出してきた文化域である。したがって、ドイツ語圏の知的・文化的遺産の紹介と研究なしには、現代の文化と学問の世界は、枢要な骨格を欠くことになる。ドイツ語圏のこうした遺産は、また、ドイツ語圏以外の世界によって受容され消化されて、

新たな力と形を生み出してきたし、今後も生み出し続けていくであろう。このことを視野に入れて、本コースは、研究範囲をドイツ語圏に限定することなく、ドイツ語圏と他の言語文化圏との関わり合いについても研究する環境を提供している。

なお、本コースでは、こうしたカリキュラムに加えて、ドイツ語圏への留学、日本およびドイツ語圏での学位取得をサポートする体制を整えている。

主な進路：研究職、ドイツ語教員、翻訳者、その他

ロシア語ロシア文化コース

当コースは、ロシア語およびロシア文化を研究対象とする。ロシア語を基盤としてロシア文化を研究し、ロシア文化を背景としてロシア語を研究することを基本姿勢としている。ここにいうロシア文化の中には、中世から現代に至る文学はもちろん、美術、映画、音楽、思想、民俗なども含まれる。

研究に際しては、どのような方法で研究するのかということが大きな問題となるが、ロシアには、フォルマリズム、バフチン、モスクワ＝タルトゥ学派、等と様々な視点、方法論が存在している。合わせてこれらのものも学んでいく。

修士課程においては、修士論文を作成する過程で、国際社会で広く活躍できる専門知識と語学力を育成する。博士課程においては、博士論文を作成する過程で、国際学会で十分に活動できる学問的力と語学力を養う。

主な進路：教員、マスコミ、商社

中国語中国文学コース

本コースは「古今兼学・語文双修」の理念のもと中国の言語と文学を多角的に探求し、中国語・中国文学についての深い知識を持つ人材および優秀な研究者の育成をめざしている。

修士課程では、学部レベルの素養の上に更に中国語・中国文学についての高度の知識の習得と研究能力を養うことを目的としている。そのため古典文学から近現代文学まで、また言語学では音韻論や文法論から中国語教授法まで、時代・分野ともに多彩な科目がそれぞれの専門家により展開されている。博士後期課程では、修士課程における研究成果を踏まえ、理論の開拓と応用力の錬磨を実践することにより研究能力を一層高めることをめざしている。そして博士論文作成とともに専門領域の更なる発展に貢献できる研究者を養成することを狙いとしている。

また修士・博士いずれの課程でも院生同士が互いに学びあうという雰囲気の中で、教員によるきめ細かい指導がなされていることも本コースの伝統的な特色といえる。

主な進路：大学教員、中学・高校教員、中国関連専門職、公務員等

演劇映像学コース

演劇映像学コースが目的とするのは、演劇・映画を中心として、身体・映像に関わる文化表象について総合的に考察し、そのいとなみを通じて、早稲田大学における坪内逍遙以来の演劇研究の伝統を発展的に継承することである。

人間とは演じ、語り、踊る存在であり、演劇の歴史とは人間の歴史にほかならない。そうした認識のもとに、東西の古典劇・現代劇、舞踊、民俗芸能をはじめ、多様な演劇的表現の探究を通じて、言語・身体・空間の関係の

ありようを再考する。映像については、芸術およびメディアとしての映画の両面的な性格を踏まえ、映画史や映画理論の諸問題を多角的に検討することによって、映像文化の特質を明らかにすることをめざす。

具体的には、日本演劇・西洋演劇・舞踊・映画に関する演習・研究指導および関連の講義科目が設置されている。

主な進路： 教員(大学・中高)、博物館、資料館、演劇・映像関係職、その他

美術史学コース

美術史学コースは洋の東西や時代を問わず、美術史の研究者、専門家を養成するための教育機関であり、また美術館、博物館などの学芸員となるための専門的かつ実践的なディシプリンを提供する。視覚イメージが氾濫する今日的な環境においては、古今東西の美術作品に通暁することは、文化・文明への洞察に不可欠であろう。コースは日本・東洋・西洋の三領域に分かれており、7名の専任教員と1名の兼任教員が指導に当たる。

美術史学では、文字資料の読解が必須であると共に、作品に対峙し、目によって理解し判断することが要求される。まず、文字資料を読みこなす語学力を身につけること、そして、「目の鍛錬」をすること。文字資料を手がかりに、無数の作品を見、目に記憶させ、「目の力」をつけなければ、美術作品の研究はできないのである。

本コースは、書家、歌人としても高名な秋草道人こと會津八一が、東洋美術史の講座を開設して以来70余年の歴史を誇る、我が国有数の美術史学専門の教育機関である。オーソドックスな研究者はもとより、美術史の枠組を超えたユニークな専門家をも輩出しているところが「早稲田美術史学」の大きな特質であろう。

入試では、自身が志望する専門領域の知識だけでなく、日本・東洋・西洋各領域における美術史についての基本的な素養が要求される。さらに、日本美術はくずし字や篆書、漢文を、東洋美術は漢文を、西洋美術はヨーロッパ二言語(英語、仏語、独語から選択)を通しての資料読解が課せられる。

主な進路:美術館、博物館、大学等教育機関、文化財研究所等行政機関、出版社、一般企業など

日本史学コース

日本史コースは、日本の歴史に関する専門の研究者(職業的研究者)を目指す人、文書館・博物館・民俗資料館などへの勤務を志す人、教員として歴史教育に関わりたいと考える人などのため、高度の知識や歴史理論および史(資)料操作に関する緻密な技術を修得することを目標としている。そのため、史料の操作・解読という基礎作業を通して研究(理論と実証)の深化を図る「演習」では、古代・中世・近世・近現代各時代それぞれに、研究領域を異にする教員を複数配置し(古代2・中世2・近世2・近現代3)、問題意識・研究素材・検証対象の多様化を図り、全体史の把握・解明に努め得るようにしている。

近年、環境歴史学や歴史人口学など新分野の開拓が成され、史(資)料に関しても、映像資料・音声資料などのほか、インターネットによる画像資料など多岐にわたってきている。

日本史コースでは、このような動向に対応し得る講義科目を配備するとともに、修士・博士論文執筆に関する研究指導にも力を注ぎ、きめ細かな指導を行っている。コース室を広く開放し、教員・院生・学部学生の研究・調査・懇談の場としているのも、日本史コースの特色の一つである。

主な進路： 研究者、教員、学芸員、マスコミ、出版社、一般企業

東洋史学コース

東洋史学コースでは、アジア諸民族の歴史と文化の研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、多元的な価値認識を基礎とした世界史像の再構築をめざしている。それは、ヨーロッパに発する近代知の枠組みを再検討する知的営為でもあり、新たな時代を担う者に要請される新しい世界観の構築でもある。

歴史研究は、まず史料の解読、批判から始めなければならない。現在、東洋史学コースで研究指導している史料は、漢文、ハングル文、モンゴル文、満洲文、トルコ文、ペルシャ文、アラビア文など多岐にわたる。こうした多様な言語の文献以外にも近年、中国、韓国で出土している竹簡、木簡、石碑などの出土文字資料を加えることができる。

そうした資料の扱い方を含めて、史料批判の訓練を行うが、史料批判こそは、歴史的思考法の前提とすべき訓練でもある。そのようにして体得した技術によって各自の個別研究を深め、新しい世界を開いていくことをコースの教育方針としている。

主な進路：大学教員、高校教員、学芸員、出版社、一般企業など

西洋史学コース

西洋史学コースの所属教員の専門分野は古代オリエントから欧米の近現代まで、多様な時代・地域に渡っている。このような体制のもとで、各自の研究テーマを深く追究するための個別指導のみならず、西洋史の体系的な理解を促し、研究の専門化と同時に多様化・学際化が進む西洋史の分野において、欧米の研究者に比肩できる能力と独自の視点をもった人材の育成に努めている。

本コースでは研究テーマの選択を含め、あくまでも大学院生各自の主体的な研究を尊重する一方、演習の複数選択や時には海外の研究者を招聘しての研究会等への出席により、発表の場を積極的に求め、他分野との交流を深めることを奨励している。また頻繁なコロキアムの開催により、早期に課程博士を取得できるよう積極的に取り組んでいる。

主な進路：研究者、教員、公務員、出版関係

考古学コース

地球上に残された人類の痕跡、遺跡、遺構、遺物の野外調査と資料の比較研究こそが考古学にとっての基本である。

したがって発掘調査を中心とする測量や撮影、遺構・遺物の検出や取り上げなどの高度なフィールドワークが必要となる。また遺物の整理や接合、実測、図面、写真などのデータ作成と整理など、考古学に必要な専門技術を磨かねばならない。さらに専門研究者としての自覚、研究論文の作成、学会発表、教育補助、社会貢献など幅広い教養や協調性などが求められる。

人類の痕跡を広く世界に探るために、日本、朝鮮、中国、東南アジア、西アジア、シルクロードなどアジアを中心に、エジプト、中南米などを含めた専任スタッフが揃っている。また非常勤教員を含めて、旧石器時代から近代までの研究をカバーしている。

主な進路：大学などの教職員、中学・高校教員、博物館学芸員、公務員（文化行政担当官など）、文化関連の非営利法人職員、一般企業など

文化人類学コース

新規に出発した文化人類学コースは、新しいスタートにふさわしい展望をもってデザインされている。コースは、2つの大きな柱で構成されている。

1) 人類学の基礎理論に精通し、最も新しい理論がどのような経緯をたどって出されてきたのか、論理的に理解する人材をつくること。この過程で、人類学の目指してきた、研究目的と、それを達成するための研究方法について精通する人材をつくること。2) その基礎の上で、人類学を異なった分野—国際機関、政府機関、開発エージェンシー、法律関係機関など—で応用できる人材をつくることである。

今日、あらゆる分野で人類学の知識が求められおり、応用力の養成をめざした多彩な「応用人類学」の確立に集中するつもりである。このため、ここでの教育は、クラス内での、ディベートを含む厳しい訓練を通して、人類学的思考法に精通する人材をつくることはもちろんのこと、それだけにとどまらず、実践の場において、個別指導の形でフィールドワークの方法の訓練に重点を置き、最終的に世界各地で、フィールドワークが展開できるような研究・教育環境を整えてゆきたいと考えている。フィールドワークの深い経験を通して、実践に強い人材づくりを目指す。

主な進路： 広告関係、研究所、大学院博士課程（他研究科・他大学を含む）、研究者、NGO、国際関係機関、日本政府機関など

アジア地域文化学コース（博士後期課程のみ）

本コースは、2002年度採択の21世紀COEプログラム「アジア地域文化エンハンスング研究センター」の研究成果を踏まえ、その教育拠点として設立されたが、さらに、2007年度採択の大学院教育改革支援プログラム（のち「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に改称）「アジア研究と地域文化学」の基盤コースでもある。

博士後期課程のみから成る本コースでは、主として前近代のアジア地域文化研究と教育に携わる歴史学・考古学・美術史学・東洋哲学の教員複数が共同で定期的に研究指導をおこない、博士論文の作成を重視する体制を整えている。すなわち、それぞれの修士課程修了者が専門性をさらに深めながら、アジア地域文化としての枠組みを共有化し、既存の各コースの垣根を越えて学横断的に学ぶ合うことが期待されている。また、コース室には、アジア地域文化に関する豊富な図書と貴重なデータベースが備えられている。

このような趣旨と環境のもとで、本コースは、主として前近代のアジア地域研究に多方面で貢献できる新しい型の研究者を社会に送り出そうとしている。

主な進路： 研究職、教員、ジャーナリズム、法人、その他

表象・メディア論コース

表象・メディア論コースは、現在の人文科学が取り組むべき課題に柔軟に対応し、大胆に挑戦する新たな研究を志向している。古典的芸術から現代の表象文化・思想にいたる広範な領域を研究対象とし、従来の学問研究の固定的枠組みからは自由な横断的ネットワークを構築する視点に立って、芸術・政治・経済・社会の諸問題、テクノロジーの進化、身体感覚の変容など現代的状況のダイナミックな把握をめざす履修環境を用意する。

当コースでは、伝統的な諸芸術分野（文学、演劇、美術等）のみならず、従来の学問領域の範囲内におさめにくいメディアアート、テレビ、写真、デジタル表現、サブカルチャー、パフォーマンス・アーツ、さらには未来に展開されるであろう文化現象をも射程に収めつつ、それらを「メディア」「身体」「イメージ」という三つのキーワードを軸

としながら分析し、多種多様な創造的営為の根源をさぐり、今日的意義を考察してゆく。

既成学問の枠組みにとらわれることなく人文科学の新地平を切り開く意欲と能力をもつ本格的研究者の養成とともに、出版界やマスメディアの活動に不可欠なメディア・リテラシー能力の向上をはかり、広告関係や学芸員など多様な領域で要請される大胆な企画力・想像力を培い、22世紀をも視界におさめた知性の土台を構築する人材を育成することをめざす。

主な進路：2010年度新設

現代文芸コース(修士課程のみ)

本コースは、学部「文芸・ジャーナリズム論系」所属の教員、すなわち、第一線で活躍する小説家・批評家・翻訳家・研究者などによる修士課程として開かれる。数々の実作者・編集者・ジャーナリストを輩出してきた旧第一・第二文学部の伝統に倣いながら、さらに、時代の動向にも対応しうる実践的かつ領域横断的な知性と意欲の育成を通して、現代の文芸界に新鮮な生気を吹き込むこと。本コースの目標はそこにあり、目標にむけ、創作の技法と理論、翻訳技術、多様なサブカルチャーにも対応しうる批評的アクセスポイント、現代的編集法、マスメディアの言説分析、内外の文学作品の創造的読解法、現代思想の応用法、各種ライブの参加・研修など、文芸界に勇躍するために不可欠な演習・講義が、幅広く柔軟に用意されている。

同時に、本コースの授業は、研究者の道を歩もうとする人々の将来にも有益な指導と刺激を与えうる。文芸の現場で通用する知性はまた、研究界の新たな地平を切り開く斬新な発想とフットワークを養うはずだからである。

こうした修士プログラムは、日本の大学ではきわめて希なものだが、本コースは、その希少性の豊かな結実を追求する。

2011年度新設

想定される進路：小説家、批評家、翻訳家、フリーライター、編集者、学内および学外の博士課程など

■早稲田大学文学研究科

2012年度 修士課程入学試験(一般入学試験)概要

◎詳細については、必ず入試要項で確認してください。2012年度要項は2011年7月下旬に早稲田大学文学研究科のホームページで公開予定です。

<http://www.waseda.jp/bun/gs/admission/master/application.html>

<参考>

※海外の大学を卒業された外国人留学生の方は、外国学生入試となります。必ず事前に、本学の国際アドミッションズオフィス(03-3204-9073)までご確認ください。

※2012年度修士課程入試の出願期間は終了しています。

※文化構想学部・文学部生のみを対象にした推薦制度も導入しています。

募集コース等の詳細は文学研究科ホームページで確認ください。

なお、既に募集は終了していますが、2012年度は下記コースにて実施されました。

- ①哲学コース ②東洋哲学コース ③社会学コース ④ドイツ語ドイツ文学コース
⑤ロシア語ロシア語文化コース ⑥東洋史学コース ⑦文化人類学コース

■出願資格

1. 学士の学位を得た者および2012年3月学士の学位取得見込みの者。
2. 外国において通常の課程による16年の学校教育を修了した者。
3. 上記1、2に該当しない者で大学院において旧教育制度修了者、各種 大専修学校卒業生など大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

※3に該当するかどうかについては、戸山総合事務センターにお問い合わせください。

■出願期間等

◎2011年8月22日(月)～8月26日(金)

出願は全て郵送により、締切日の消印を有効とします。

■ 試験科目

コース	第1次試験			第2次試験
	一般外国語		専門科目	
	外国人留学生以外	外国人留学生		
哲 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち2ヶ国語	日本語・左記より選択した母国語以外の1ヶ国語の計2ヶ国語	哲学	口述試問 (面接)
東洋哲学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	東洋哲学(資料読解を含む)	
心 理 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語のうち1ヶ国語	日本語	心理学	
社 会 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	社会学	
教 育 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	教育学	
日本語日本文学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	日本語学・日本文学(資料読解を含む)	
英 文 学	仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	英語・英米文学	
フランス語フランス文学	英・独・露・現代中国・伊・西語のうち1ヶ国語	日本語・左記より選択した母国語以外の1ヶ国語の計2ヶ国語	フランス語・フランス文学	
ドイツ語ドイツ文学	英・仏・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語・左記より選択した母国語以外の1ヶ国語の計2ヶ国語	ドイツ語・ドイツ文学	
ロシア語ロシア文化	英・仏・独・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	ロシア語・ロシア文学	
中国語中国文学	英・仏・独・露・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	中国語・中国文学	
演劇映像学	英・仏・独・露・現代中国語・伊・西語のうち1ヶ国語	日本語	演劇学・舞踊学・映画学(資料読解を含む)	
美術史学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	美術史学(資料読解を含む)	
日本史学	英・仏・独・露・現代中国・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	日本史学(資料読解を含む)	
東洋史学	英・仏・独・露・現代中国・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	東洋史学(資料読解を含む)	口述試問 (面接)
西洋史学	英・仏・独・露・伊・西語のうち1ヶ国語	日本語・左記より選択した母国語以外の1ヶ国語の計2ヶ国語	西洋史学	
考 古 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	考古学(資料読解を含む)	
文化人類学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	文化人類学	
表象・メディア論	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	表象・メディア論(資料読解を含む)	
現 代 文 芸	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語・朝鮮語のうち1ヶ国語	日本語	文芸	

(注1) 辞書の使用は一切認めません。

(注2) 外国人留学生の一般外国語試験において、母国語を選択することはできません。

(注3) 日本史学コースの第2次試験(口述試問)は博士後期課程第2次試験日と同日に実施します。試験場等は、試験日に戸山キャンパス正門で発表します。

なお、日本史学コースの第1次合格者は、2012年1月上旬に、下記のいずれかの論文を戸山総合事務センターへ提出してください。

- ①卒業論文のある学部出身者……卒業論文のコピー
- ②卒業論文のない学部出身者……小論文400字詰原稿用紙換算50枚(20,000字)程度
- ③外国人留学生で国外の学部出身者……小論文400字詰原稿用紙20枚程度(和文・自筆のこと)

■出願書類として課す小論文(下表のコースを志願する者のみ)

コース	原稿枚数
哲学	希望する研究テーマについての論文10,000~12,000字
心理学	研究計画書8,000字以内(横書のこと)※希望指導教員名を明記してください。
社会学	研究計画書400字詰原稿用紙10枚程度 ワープロの場合、40×30字×3枚程度
教育学	研究計画書4,000字程度
日本語日本文学	希望する専門にかかわるテーマについて400字詰原稿用紙20枚前後ワープロ不可(自筆のこと)
英文学	希望する専門にかかわるテーマについて研究計画書2,000字程度
フランス語フランス文学	研究計画書2,000字程度
ドイツ語ドイツ文学	研究計画書4,000字以上
ロシア語ロシア文化	研究計画書4,000字前後
演劇映像学	希望する専門にかかわるテーマについて8,000字程度
美術史学	研究計画書8,000字以内
東洋史学	研究計画書400字詰原稿用紙20枚前後、ワープロ不可(自筆のこと)
西洋史学	研究計画書8,000字以内
考古学	研究計画書8,000字以内
文化人類学	研究計画書4,000字以内
表象・メディア論	研究計画書4,000~5,000字
現代文芸	研究計画書4,000字程度 ※なお、既卒者は研究計画書に加え、卒業論文または、それに準ずる論文(創作も可)を提出すること。

(注1) 志望コース・氏名を必ず明記してください。

(注2) アルファベット等の半角文字は2文字を1文字分と換算します。

(注3) 仕上がりはA4版とし、読みやすい形式にしてステプラ等で留めてください。

■試験期日および合格者発表日

第1次試験		第2次試験	
試験日	発表日時	試験日	発表日時
2011年 9月17日(土)	9月22日(木) 午前10時	9月23日(金・祝)	9月26日(月) 午前10時

※ 文学研究科日本史学コースの第2次試験の日程は、試験日2012年2月10日(金)、合格者発表日は、2月13日(月)とします。

※ 第1次試験合格者には、第2次試験に必要な書類を事務所にて交付します。

◎発表場所：戸山キャンパス34号館1階文学研究科掲示板

(発表の補助的手段としてWEB上でも合格者の受験番号を発表します)

■試験時間割

第1次試験		第2次試験
専門科目	外国語	口述試問(面接)
10:00~12:00	13:00~14:00	9:00~

(注) 文学研究科の次のコースの試験時間は、以下のとおり。

※1. 哲学コースの「一般外国語」試験時間は13:00~15:00とします。

※2. フランス語フランス文学、ドイツ語ドイツ文学、西洋史学コースの外国人留学生の「一般外国語(日本語を含む)」試験時間は13:00~15:00とします。

以 上

2011年度修士入試データ								
※下段は女性								
人文科学専攻 (コース)	志願者		一次受験者		二次受験者		合格者	
	全体	学外	全体	学外	全体	学外	全体	学外
哲学	14	6	12	5	6	2	4	1
	5	2	5	2	3	1	3	1
東洋哲学	7	4	7	4	4	3	4	3
	5	3	5	3	3	2	3	2
心理学	16	8	16	8	13	7	9	3
	11	6	11	6	8	5	5	2
社会学	16	9	15	8	9	4	7	2
	8	6	8	6	3	2	2	1
教育学	16	8	15	7	8	4	7	3
	7	4	6	3	3	2	3	2
日本語日本文学	46	24	44	23	18	6	17	6
	25	16	25	16	11	6	11	6
英文学	22	7	20	6	12	2	10	1
	12	5	11	4	8	2	7	1
フランス語フランス文学	12	5	11	4	5	1	4	1
	8	4	7	3	4	1	3	1
ドイツ語ドイツ文学	6	1	6	1	4	1	4	1
	4	1	4	1	2	1	2	1
ロシア語ロシア文学	6	2	4	2	3	1	3	1
	0	0	0	0	0	0	0	0
中国語中国文学	14	9	13	9	5	1	5	1
	10	9	10	9	2	1	2	1
演劇映像学	23	7	22	7	12	2	8	1
	15	4	15	4	10	2	6	1
美術史学	23	9	23	9	12	3	12	3
	16	5	16	5	9	1	9	1
日本史学	42	16	40	16	18	5	17	4
	11	4	10	4	7	2	7	2
東洋史学	13	8	13	8	7	2	6	1
	7	3	7	3	4	0	4	0
西洋史学	20	11	20	11	12	5	11	4
	10	6	10	6	7	3	6	2
考古学	6	2	5	1	5	1	5	1
	3	1	3	1	3	1	3	1
文化人類学	7	1	6	1	4	1	4	1
	5	1	5	1	3	1	3	1
表象・メディア論	44	19	42	18	17	5	13	3
	22	14	20	13	6	2	4	1
現代文芸	47	16	46	16	16	3	12	2
	17	7	17	7	3	1	2	1
合計	400	172	380	164	190	59	162	43
	201	101	195	97	99	36	85	28

■早稲田大学文学研究科

2012 年度 博士後期課程入学試験(一般入学試験)概要

◎詳細については、必ず入試要項で確認してください。2012年度要項は2011年10月下旬に

早稲田大学文学研究科のホームページで公開予定です。

<http://www.waseda.jp/bun/gs/admission/doctor/application.html>

◎海外の大学を卒業された外国人留学生の方は、必ず事前に、本学の国際アドミッションズオフィス(03-3204-9073)までお問い合わせください。

■出願資格

- 1.修士もしくは法務博士(専門職)の学位を得た者および2012年3月修士もしくは法務博士(専門職)の学位取得見込みの者。
- 2.外国において修士の学位またはこれに相当する学位を得た者。
- 3.大学を卒業した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を得た者と同等以上の学力があると認められた者。
- 4.上記に該当しない者で、大学院において、旧教育制度修了者など、修士の学位を得た者と同等の学力があると認められた者。

※3、4に該当するかどうかについては、戸山総合事務センターにお問合せください。

■出願期間等

2012年1月6日(金)～1月12日(木)

出願は全て郵送により、締切日の消印を有効とします。

■試験科目

コース	第1次試験			第2次試験
	一般外国語		専門科目	
	外国人留学生以外	外国人留学生		
哲 学	英・仏・独語のうち 2か国語選択	日本語・左記より選択した母国語以外の 1ヶ国語の2ヶ国語	資料解説	口述試問
東洋哲学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	日本語	資料解説	
心 理 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語 のうち1か国語選択	日本語・左記より選択した母国語以外の 1ヶ国語の2ヶ国語	無し（実施しない）	
社 会 学	仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	英文による社会学資料 の解説	
教 育 学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	日本語	教育学に関する知識	
日本語日本文学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	日本語	資料解説	
英 文 学	仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語	英語	
フランス語フランス文学	英・独・露・現代中国・伊・西語 のうち1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	フランス語	
ドイツ語ドイツ文学	英・仏・露・現代中国・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語・左記より選択した母国語以外の 1ヶ国語の2ヶ国語	ドイツ語	
ロシア語ロシア文化	英・仏・独・現代中国・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語	ロシア語	
中国語中国文学	英・仏・独・露・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語	中国語	
演劇映像学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西語 のうち1か国語選択	日本語	資料解説	
美術史学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語 のうち1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	資料解説	
日本史学	英・仏・独・露・現代中国・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語	資料解説	
東洋史学	英・仏・独・露・現代中国・朝鮮語 のうち1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	資料解説	
西洋史学	英・仏・独・露・伊・西語 のうち2か国語選択	日本語・左記より選択した母国語以外の 2ヶ国語の3ヶ国語	無し（実施しない）	
考古学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	資料解説	
文化人類学	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	母国語以外の左記外国語および日本語の うち1ヶ国語選択	資料解説	
アジア地域文化学	英・仏・独・露・現代中国・朝鮮語 のうち1か国語選択	日本語	資料解説	
表象・メディア論	英・仏・独・露・現代中国・伊・西・朝鮮語のうち 1か国語選択	日本語	資料解説	

(注1) 可否の判定には、修士論文の成績も参考とされます。
(注2) 上記一般外国語(日本語を除く)試験においては、辞書の使用を認めますが、専門科目については認めません。
(注3) 外国人留学生の一般外国語試験において、母国語を選択することはできません。

■試験期日および合格者発表日

第1次試験		第2次試験	
試験日	発表日時	試験日	発表日時
2012年2月5日(日)	2月8日(水) 午前10時	2月10日(金)	2月13日(月) 午前10時

※ 第1次試験合格者には、第2次試験に必要な書類を事務所にて交付します。

◎発表場所：戸山キャンパス 34号館 1階文学研究科掲示板

(発表の補助的手段として、WEB上でも合格者の受験番号を発表します。)

■試験時間割

	第1次試験		第2次試験
	一般外国語	専門科目	口述試問
下記以外	10:00～11:20 1ヶ国語	13:00～14:30	10:00～
哲学コース	10:00～12:40 2ヶ国語	13:30～15:00	
西洋史学コース	10:00～12:40 2ヶ国語	—	
〔外国人留学生〕 西洋史学コース	8:40～12:40 3ヶ国語	—	
〔外国人留学生〕 心理学コース	10:00～12:40 2ヶ国語	—	
〔外国人留学生〕 ドイツ語ドイツ文学コース	8:40～11:20 2ヶ国語	13:00～14:30	

以上

2011年度博士入試データ								
※下段は女性								
人文科学専攻 (コース)	志願者		一次受験者		二次受験者		合格者	
	全体	学外	全体	学外	全体	学外	全体	学外
哲学	5	1	4	1	2	0	2	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋哲学	7	0	7	0	6	0	6	0
	1	0	1	0	1	0	1	0
心理学	5	2	5	2	4	1	3	0
	1	1	1	1	1	1	0	0
社会学	5	0	4	0	4	1	3	0
	3	0	3	0	3	1	2	0
教育学	3	2	3	2	0	0	0	0
	2	1	2	1	0	0	0	0
日本語日本文学	11	3	11	3	5	1	5	1
	4	1	4	1	1	0	1	0
英文学	6	0	6	0	3	0	2	0
	4	0	4	0	2	0	1	0
フランス語フランス文学	4	0	4	0	3	0	3	0
	2	0	2	0	2	0	2	0
ドイツ語ドイツ文学	2	0	1	0	1	0	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
ロシア語ロシア文学	3	2	3	2	1	1	1	1
	3	2	3	2	1	1	1	1
中国語中国文学	5	2	5	2	3	0	3	0
	4	1	4	1	3	0	3	0
演劇映像学	4	1	4	1	3	1	3	1
	3	1	3	1	2	1	2	1
美術史学	8	2	8	2	6	2	6	2
	5	1	5	1	5	1	5	1
日本史学	9	2	9	2	5	0	4	0
	1	1	1	1	0	0	0	0
東洋史学	5	1	4	0	4	0	4	0
	1	0	1	0	1	0	1	0
西洋史学	3	1	3	1	3	1	3	1
	2	1	2	1	2	1	2	1
考古学	2	0	2	0	2	0	2	0
	2	0	2	0	2	0	2	0
文化人類学	6	3	6	3	4	2	4	2
	3	2	3	2	1	1	1	1
アジア地域文化	1	0	1	0	1	0	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
表象・メディア論	3	2	3	2	2	1	2	1
	1	0	1	0	1	0	1	0
合計	97	24	93	23	62	11	58	9
	42	12	42	12	28	7	25	5

早稲田大学文学研究科 学費について ～2011年度 ご参考～

■入学金

200,000円

※過去に早稲田大学に正規学生として入学した場合、入学金は免除となります。

■学費

◆修士課程					
(1)心理学コース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	264,500	55,000	15,000	1,500	336,000
後期	264,500	55,000	15,000	1,500	336,000
計	529,000	110,000	30,000	3,000	672,000
(2)文化人類学コース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	264,500	55,000	5,000	1,500	326,000
後期	264,500	55,000	5,000	1,500	326,000
計	529,000	110,000	10,000	3,000	652,000
(3)心理学・文化人類学以外のコース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	264,500	55,000	1,500	1,500	322,500
後期	264,500	55,000	1,500	1,500	322,500
計	529,000	110,000	3,000	3,000	645,000

◆博士後期課程					
(1)心理学コース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	219,000	35,000	15,000	1,500	270,500
後期	219,000	35,000	15,000	1,500	270,500
計	438,000	70,000	30,000	3,000	541,000
(2)文化人類学コース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	219,000	35,000	5,000	1,500	260,500
後期	219,000	35,000	5,000	1,500	260,500
計	438,000	70,000	10,000	3,000	521,000
(3)心理学・文化人類学以外のコース					
					単位:円
	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進 互助会費	合計
前期	219,000	35,000	1,500	1,500	257,000
後期	219,000	35,000	1,500	1,500	257,000
計	438,000	70,000	3,000	3,000	514,000

【奨学金制度】

下表の奨学金額は2011年度実績で掲載しています。2012年度の奨学金制度の詳細については、入学手続き時に配付する「2012年度版Challenge 奨学金情報」を参照してください（※下記の奨学金は日本人学生向けの情報です）。

奨学課ホームページ：<http://www.waseda.jp/syogakukin/>

奨学金名		目的とあらまし	奨学金額	出願資格（選考基準）
学外奨学金	日本学生支援機構 奨学金【貸与】	国の育英奨学事業で、経済的理由により修学困難な者に学資を貸与することによって、教育の機会均等を図るとともに、社会に貢献する人材を育成することを目的とします。	<ul style="list-style-type: none"> ●第一種（無利子） 修士課程（月額）88,000円 博士後期課程（月額）122,000円 ●第二種（有利子） 全課程（月額）50,000円 80,000円、 100,000円 130,000円 150,000円 希望額 を選択 標準修業年限内は継続して貸与されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修士課程1・2年生 ・博士後期課程1～3年生 (学業成績・家計状況・人物)
	地方公共団体・民間団体の奨学金【給付・貸与】	団体によって奨学金額・出願資格が異なります。 (詳細は、入学手続き時に配付する「Challenge奨学金情報」参照)		
学内奨学金	大隈記念奨学金【給付】	早稲田大学創立者大隈重信を記念し、建学の精神を顕揚して、人材の育成に資することを目的とします。	(年額) 400,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・修士課程1・2年生 ・博士後期課程3年生(学業成績・家計状況・人物)
	小野梓記念奨学金【給付】	早稲田大学創立当初の功労者である小野梓を記念し、経済的に修学困難な学生を援助することを目的とします。	(年額) 400,000円	<ul style="list-style-type: none"> ・修士課程1・2年生 (学業成績・家計状況・人物)
	大学院博士後期課程若手研究者養成奨学金制度【給付】	博士後期課程に在学する学生を対象に、高度の研究能力と豊かな学識を有する研究者の養成に資する目的で設定されました。	(年額) 400,000円	大学院博士後期課程の標準修業年限内（1年～3年）に在籍し、奨学金を受ける年度の4月1日現在で30歳未満の学生全員。 ただし、授業料を免除されている学生（国費留学生、助手等）を除く。
	創立125周年記念奨学金【給付】	早稲田大学創立125周年を記念し、2007年に新設された奨学金です。各大学院が独自の方針に基づき設計し、運用します。	(年額) 370,000円（文学研究科）	※「Challenge奨学金情報」を参照してください。
	指定寄付奨学金【給付・貸与】	全学で約30種類の奨学金があります。奨学金によって奨学金額・出願資格が異なります。（詳細は、入学手続き時に配付する「Challenge奨学金情報」参照）		